

パーマカルチャー・シティについて

- ・ 近代的な機能分化された暮らしを見直し、食と住に関する暮らしの自給性と持続性を獲得していくための統合的デザイン論であるパーマカルチャーの一つの帰結の都市像
- ・ 中心テーマは、食料生産の場としての生態系の新たな創造
- ・ 都市の中のあらゆる空間を「食べられるエコ・システム化」する試み。住宅のガーデン、ベランダ、屋上、壁面、歩道、道路、空き地、街角広場、校庭、公園、開発未利用地等のあらゆる場に、農産物を生産できる新たな生態系を創造
- ・ 都市の中に、「食べられ、微気候をつくる森」をつくる
- ・ 個人的な生産活動だけでなく、コミュニティでの共同的生产活動によるコミュニティ・ガーデン（共同菜園）やシティ・ファーム（地域コミュニティ運営の都市農場）を創造することにより、都市のコミュニティ、ヒューマニティの再生をも可能
- ・ 小領域での循環型で自給自立型のコミュニティ「エコビレッジ」（都市、農村を問わず）の連結によって織りなされる都市像
- ・ 主体としての人間の社会的、経済的な活動システム単位としてエコビレッジを据え直し、人間の基本的生活ニーズ（新鮮な食べ物、新鮮な空気、自然とのふれあい、健康的な建物、親密な人間関係、精神的な癒やし等）を、身近な場で持続的に確保するための空間単位を創造
- ・ エコビレッジの基本的空間構成は、居住、仕事場、コミュニティー、菜園、移動の各ゾーン。一部は自然の森が入り込んでいる。
- ・ エコビレッジ内には3つエコロジー（自然生態系，社会・文化性，精神性・癒し・やすらぎ）がある。
- ・ エコシティの中心部には、商店、情報センター、文化センターなど、エコビレッジで個々に設置するには非効率的な施設が存在。規模がある程度大きい方が効率的な施設群
- ・ 地産地消的エネルギーシステム
 - ？ 建物は高断熱による省エネ型施設
 - ？ 生態系と調和した自然素材，自然エネルギー活用の環境建築の創造，セルフビルトでの建物づくり，緑地環境づく，微気候づくり
 - ？ 熱エネルギーは太陽エネルギーを直接住宅施設内で蓄熱するダイレクトゲイン方式、温熱パイプによる集熱方式、里山のバイオマス資源をチップ化した地域冷暖房プラントからの温水利用、里山のバイオマスを加工したペレットストーブ、暖房効率の良い薪使用の輻射熱マスストーブ
 - ？ 電気は風車水車による発電、里山のバイオマス資源をチップ化した地域冷暖房の熱の供給と同時に発電する地域発電、ソーラーパネル発電、メタンガス発酵によるガス発電
 - ？ エコシティ内の下水処理システムによる汚泥処理過程から出る廃熱はヒートポンプシステムで地域暖房温水を生産し、汚泥は発酵させてメタンガスをつくり使用
 - ？ 輸送動力は公共交通機関、カーシェアリング、エコカー、自転車の活用

- ・ 具体的デザインにあたっては、マイナスの発想はしない。例えば、ビルにより日陰ができれば、冷気が発生しそれを活用する。
- ・ 都市をエコ市民が自主的・共同的に運営していく，ソフトな仕掛けが必要。地域通貨のような代替的経済システムの開発。都市の里山が出来て終わりではいけない。

注：日本大学助教授，パーマカルチャー・センター・ジャパン代表 系長浩司先生
(大学の研究室のホームページ，

<http://www.brs.nihon-u.ac.jp/~areds/index.html>)のお話、「エコ・シティの新展望 循環し永続する生命都市へ」

(http://www.makuhari.or.jp/urbanist/1997/97_01.html),

パーマカルチャー・センター・ジャパンのホームページ (<http://www.pccj.net>)

里地ネットワークのホームページにて，

【系長浩司先生の欧州エコロジカルレポート】

http://www.mizumidori.jp/satochi/research_02.html

等各種資料により事務局作成